

フィンランドで効果を上げる驚きの救急対応

「オープンダイアログ」

「オープンダイアログ」という言葉を聞いたことがあるだろうか。直訳すれば、「開かれた対話」。

オープンダイアログは、統合失調症患者への治療的介入の一手法として、フィンランド西ラップランド地方にあるケロプダス病院のファミリーセラピストたちを中心に、1980年代から実践が続けられてきた。

今、この手法が注目を集めている理由は、その突出して高い治癒率にある。

手法を簡単に紹介しよう。急性期の危機状態にあるクライアントのもとへ、「依頼から24時間以内」に、「専門家チーム」で出向き、「状態が改善するまで毎日」患者と家族や関係する重要人物を交えて「対話」する――。

このシンプルな介入により、抗精神病薬をほとんど使うことなく、2年間の予後調査で初発患者の82%

の症状を、再発がないか、ごく軽微なものに抑えるなど、目覚ましい成果が得られていると報告されている

【関連文献 PMID:14606203、16433289、12197148、16633478】。

2014年3月24日、医学書院ではナースングカフェ「オープンダイアログって何だ?」を開催した。まさに今まであまり知られていなかったオープンダイアログを、手探りながら知ろうとする企画である。

斎藤環氏（筑波大学・教授）、石原孝二氏（東京大学大学院・准教授）の講演ののち、ビデオ『Open Dialogue』を鑑賞。その後、向谷地生良氏（浦河赤十字病院・ソーシャルワーカー）を迎えて、会場内参加者と熱気あふれる自由な質疑応答・討議が行われた。

本特集は、この日の様子を再現する形で、オープンダイアログが秘める可能性についてお伝えしていきたい。



特集内写真提供：神保康子